

「誰もが暮らしやすいまちづくり」を考える座談会



第1回 課題を見つける
第1部「外国人が働き・暮らしやすいまち」
第2部「女性が働き・暮らしやすいまち」

第2回 「ありたい姿」を考える
「誰もが自分らしく輝き、暮らしやすいまち」とは？

日 時:

第1回 2025年8月31日(日)

第2回 2025年9月6日(土)

場 所: 西公民館

参加者:

第1回第1部(外国人) 26名

第2部(女性) 16名

第2回 19名



「外国人が働き・暮らしやすいまち」～ 課題～

※(●)は重要度を表しています。

1. 交通機関・住居 ・交通手段が少なく、公共交通が不便 (バス本数の少なさ、ICカード未対応)(●) ・車社会で移動手段に限られる ・外国人はアパートを借りにくく、保証人問題が壁になっている	6. コミュニケーション・交流 ・偏見・差別、疎外感、孤立感が強く出ている ・相談相手・交流の場が少なく「仕事と家の往復だけ」になりがち ・コーディネーターや支援者が不足 ・多言語対応が不十分、日本語・方言の壁 ・「やさしい日本語」での情報提供が不足 ・SNSやニュースなど、外国人向けの情報発信が不足
2. 食に関する課題 ・食材調達の難しさ(特にハラル食・母国料理) ・販売場所や飲食店の少なさ(ハラル食等) ・物価が高く、買い物もづらい	7. 手続き・サービス ・病院での対応や通訳不足(大きな課題) ・市役所や銀行の手続きが難しい／口座開設・送金が困難 ・情報がわかりにくく、伝達不足 ・在留資格や技能実習制度に関する不安
3. 宗教に関する課題 ・モスクや祈りの場がない／祈りの時間を取れない ・宗教上の習慣に対する理解不足	8. 教育 ・子どもの教育機会への不安 (学校との関係、インターナショナルスクール希望など) ・日本語教育の場が少ない(●) ・教育方針の違い
4. 仕事・職場 ・コミュニケーションの壁、職場の人間関係の難しさ、偏見が大きな問題 ・言語不足、舞鶴弁・専門用語の理解不足 ・賃金や労働条件の不公平感、長時間労働 ・転職やキャリアアップの難しさ ・日本の職場文化や習慣に馴染みにくい	9. その他 ・雪や寒さなど気候の違い ・MIA(舞鶴国際交流協会)の場所がわかりにくく目立たない
5. 地域・ご近所ルール ・ゴミ出しルールの複雑さと頻度の少なさ(●) ・回覧板や自治会ルールがわかりにくい ・地域の偏見や「外国人一括り」での扱い ・地域コミュニティに入りづらく孤立しやすい	

「外国人が働き・暮らしやすいまち」～打ち手～

※(●)は重要度を表しています。

すぐできそうなこと

■市民が主体

- ・相談できる人を増やす
- ・町内会で外国人住民と交流する
- ・居心地よい場づくり・日本人と話す場所を増やす
- ・各町内に民生委員のような人を設置
- ・国際交流の機会を増やす

■その他(企業等)が主体

- ・優しい日本語を使う
- ・目的型交流サロンの設立(地域の未利用スペース活用)
- ・交流の場を持つ
- ・誰でも受け入れる職場をつくる
- ・多言語QR対応ガイド
- ・外国人ネットワークSNSの設置
- ・共に学ぶ環境をつくる
- ・日本人を学ぶチャンスをつくる(●×2)
- ・啓発

■行政が主体(舞鶴市)

- ・デジタル化マニュアルの作成
- ・市民に(外国人が)困っていることを知ってもらう
- ・外国人向けLINEなどでの情報発信
- ・労働状況の把握調査
- ・家主の理解促進
- ・SNS活用(●×3)
- ・ふりがな対応
- ・市HPの多言語化
- ・暮らしのガイドブックをHPでダウンロード可能に
- ・職場の悩みを相談できる窓口の設置

中期的に取り組むこと

■市民が主体

- ・共に学ぶ環境をつくる(●)
- ・日本人を学ぶチャンスをつくる(●×2)

■その他(企業等)が主体

- ・啓発活動

じっくり温めたいこと

■市民が主体

- ・ハラル料理が食べられる場所を増やす(●×2)
- ・送金の仕方を紹介する
- ・外国人用の窓口設置
- ・日本語学校をつくる
- ・学習の場を増やす
- ・日本語レベル別クラスをつくる

■その他(企業等)が主体

- ・宗教上の理解

■行政が主体(舞鶴市)

- ・日本人並みの賃金保証のルール化(●)
- ・配偶者を呼ぶための支援
- ・技能実習生の転職を可能にする仕組み
- ・公的保証人制度の構築(●)
- ・ゴミ出しルールの見直し
- ・外国人センターの設立と支援の中心化
- ・バスを増やす